



「力」をつける！

平成30年12月20日号
文責 校長 成瀬 啓

認知的能力と非認知的能力（非認知スキル）（社会情動的スキル）



図1：認知的能力と非認知的能力

(NHKエデュケーショナル「すくこむ」ホームページより)

決める力、「自分はできると思う心」等は、目には見えないもので、その力や姿勢を目に見える量や点数として図れるものではありません。でも、このような目に見えない力や姿勢を伸ばすことが、学力向上を生み、将来の成功に結びつきやすいということが分かってきました。

9月末の学習参観日でもお話ししましたが、「非認知的能力」（非認知スキル）（社会情動的スキル）という言葉を知っていますか？忍耐力、自尊心、社会性など幅広い力や姿勢を示すもので、学力の向上や将来の成功の支えとなるものとして、世界的に注目されているものです。

読み、書き、計算等の教科の学習は、点数等で図ることができるもので、「認知的能力」と言います。この知的教育の成果は目に見えやすく、周囲と比較しやすいため、親としても敏感になりやすいものです。しかし、「最後まで根気強く取り組もうとする姿勢」、「友達と協力して取り組むことのできる力」、「自分で物事を



図2：非認知的能力とは

(NHKエデュケーショナル「すくこむ」ホームページより)

- ◎目標を達成するための
「忍耐力」「自己抑制」「目標への情熱」
…目標に向かって頑張る力
- ◎他者と協力するための
「社会性」「敬意」「思いやり」
…人とうまく関わる力
- ◎情動を抑制するための
「自尊心」「楽観性」「自信」
…感情をコントロールする力

「ベネッセ教育情報サイト」より

では、「非認知的能力」とはどのようなものなのでしょうか？一言でいうのは難しいですが、「ベネッセ教育情報サイト」によると、上記のようなものが含まれていると説明しています。

いずれも、学校で集団生活を送るためにも、将来社会で生きるためにも大切な力や姿勢だと思えます。具体的な場面で考えてみましょう。たとえば4年算数「面積」の問題を解くときのことを思い浮かべてください。長方形の面積を求めるためには「長方形の面積＝たて×よこ」という公式を暗記したり、かけ算をする計算力といった「認知的能力」が求められます。しかし、理解した力を使って、いろいろな形の面積をや長方形がいくつか重なった複合図形の問題を解くに当たって、先生の話をしっかり聞いて理解しようと努力したり、理解できるまで根気強く勉強を続けたり、最後まで諦めずに問題を解いたり、友達と教え合って学び合ったりといった「非認知的能力」の支えが必要となります。学年が上がるにつれて、さらに努力や工夫が必要になってきたときに、この「非認知的能力」の支えがなければ、主体的に学び続けることができなくなり、伸び悩むことが考えられます。

さらにこの能力は、学校での生活だけでなく、生涯にわたって自分を成長させたり、社会の中で豊かな人間関係を構築したり、将来結婚して楽しい家庭生活を送り、子供を成長させたりするなどの、人生のあらゆる営みの支えとなるものです。そして、その人らしさの土台を形成する重要な要素となるものです。

・・・この続きは、明日21号で！